

公民館の今後のあり方について

～学びの仕組みを再構築するために～

(最終案)

令和2年1月
宇治市教育委員会

目次

1. はじめに	1
2. 公民館の課題	2
答申で挙げられた課題	
市教委の考える5つの課題	
3. 答申で示された公民館の今後のあり方	4
公民館の役割の再確認	
今後のあり方の方向性	
必要な取組と視点	
4. 市教委が考える生涯学習のビジョンと公民館の今後のあり方 ...	6
5. 市教委の取組	7
6. おわりに	12

1

はじめに

平成13年に第4次総合計画期間内の公共施設の整備にかかる基本方針とするという位置づけで策定された公共施設整備計画において、宇治公民館の耐震性能の不足、それによる建て替えの必要性が示され、宇治公民館も含め、公民館の施設更新時にはコミュニティセンターとして建て替える方針が示されたが、結論を出すには至らなかった。その後も教育委員会（以下、市教委という。）では引き続き公民館のあり方について検討を重ねてきた。そして、平成26年に（仮称）宇治川太閤堤跡歴史公園へ宇治公民館の機能移転を目指す方針を示したが、結果、実現できなかった。このように、本市の公民館については幾度となく、そのあり方について議論がなされてきた。

その後、第5次総合計画第3期中期計画及び公共施設等総合管理計画において、「耐震性に課題がある施設もあることから、早急に公民館のあり方を検討し、教育委員会会議や生涯学習審議会などの意見も伺いながら、方向性を取りまとめ、市としての方針を決定しますが、生涯学習の活動は維持・継続しながら、他の施設との複合化や統廃合の検討を進めます。」とした。このように本市の公民館は、平成29年度末をもって閉館している宇治公民館を始め、市内5公民館の課題や他の公共施設との複合化・統廃合の検討が早急に解決すべき課題となっている。

そこで、市教委は、これらの課題を検討するにあたり、平成30年6月18日に生涯学習審議会に対して、「公民館の今後のあり方について」諮問をし、審議会においては、様々な角度から活発に議論がなされ、平成31年2月6日に答申を受けた。その内容は公民館の施設に関する面だけにとどまらず、生涯学習のより一層の推進に向けた仕組みの構築、民間施設も含めた市内の資源の活用、教育以外の分野との連携などといった幅広いビジョンを持ったものとなっており、市教委としてもその実現に向け検討を行ってきたところである。

そしてこの度、市教委として、更なる生涯学習の振興を図るため、ここに「公民館の今後のあり方について～学びの仕組みを再構築するために～」を策定した。今回の方針は、生涯学習のビジョンを達成するための大きな一歩であるとともに、今後、これを生涯学習推進の方針として制度設計を進めることとする。

2.

公民館の課題

公民館の今後のあり方を検討するにあたり、まず答申で指摘されていた公民館が抱えている課題を明確にしたうえで、その課題に対してどのような取組が必要か検討する。

答申で挙げられた課題

市内各公民館に共通した課題として、次の点が挙げられた。

- サークルの登録制が、新規利用の妨げになることもある。
- 利用者が固定化されている。
- 利用者の年齢層に偏りがある。（高齢者が多い）
- 部屋の種類によって利用状況に差がある。
- 公民館の役割を利用者に周知できていない。
- 現体制では、社会還元に導く指導・育成まで手が回らない。

また、以下のような意見をいただいた。

- 今後は、全市的な連携・発展の視点で、社会教育法に定める公民館の枠組みにとらわれず、生涯学習のより良い推進方法を検討する必要がある。
- 市民は自らの学びの充実だけを目的とせず、市とともに生涯学習推進の担い手となることが望まれる。同時に、そのための資源・資産も活かしていかなばならないため、有料化も含めた適切な運営方法を検討していくべきであろう。
- 宇治公民館の閉館に伴い、活動場所や内容を変更して活動を継続している団体等もあることから、生涯学習を推進する上で、活動の場や地域性について十分に配慮する必要がある。

上記の答申で挙げられた課題等を踏まえて、市教委としても、主に次の5点を公民館の課題と捉えている。

市教委の考える5つの課題

課題① 現状の公民館では、変化する社会状況や地域住民のニーズに応えきれない面がある

社会教育の範疇にこだわらず、幅広い生涯学習のニーズに応え、本市の関連施設や地域の団体と連携して生涯学習を一層推進することができるよう見直す必要がある。

課題② 新規利用者が気軽に施設を利用できない

現在、公民館を利用する団体には、登録及び館の運営への協力を求めてきた。このことは、登録団体が活動を通して学びを深めると共に、長年、公民館と協働で運営を支える形へとつながってきた。その一方で、利用団体が多いため、現在の仕組みでは新規に利用できる余裕がない状況となっている。運営の仕組みを工夫することで、新規利用者が気軽に利用できる環境を整える必要がある。

課題③ 公民館に関わる情報について周知が不足している

公民館がどういった目的の施設なのか、どういった役割を果たしているのか、どういったことをしているのか、市民に対して公民館に関する情報の周知が不足していた。このことから、幅広い年齢層に向けた情報発信をする必要がある。

課題④ 現状の運営方法では生涯学習の場の維持が困難になる恐れがある

市内の多くの公共施設が建設から相当な年数が経過していることから、社会情勢や厳しい財政状況に合わせて、限られた資源を有効活用することが市全体で求められている。また、生涯学習の場を維持し、より永く機能し続けていくために、財源の確保が必要となっている。

課題⑤ 宇治公民館閉館に伴う、周辺住民の学びの場に関する地域性を考慮する必要がある

宇治公民館閉館後、事業や市民の活動の場は、生涯学習センターや他の公民館、その他の公共施設に移されたが、宇治公民館の閉館をきっかけに学びの場を失ったり、活動を終了した団体があることも事実である。このことから、学びの場に関して地域性を考慮することが必要である。

以上の5点を公民館が抱える喫緊の課題として捉え、答申内容を鑑みながら公民館の今後のあり方について検討していく。

3.

答申で示された公民館の今後のあり方

答申では、公民館の役割を再確認・再定義したうえで、今後のあり方についての方向性や取組、あり方を実現するために必要な視点を示していただいた。

公民館の役割の再確認

- 人を育てる
～多様な学びを支え、あすの宇治を担う人材を育成する～
- 人をつなぐ
～学びを通して人を繋ぎ、地域の交流を育む～
- 社会還元を支援する
～学びの成果を市民自らが社会還元できるよう支援する～
- 学びの場をつくる
～誰もが気軽に利用できる生涯学習の場を市民と共につくる～

答申では、公民館の役割を上記のとおり再確認・再定義していただいた。これは、公共施設全体が果たしていくべき役割でもあるとの意見もいただいた。今後もその役割を果たしながら、更に市民の生涯学習を推進し、まちを豊かにする取組を進めることが求められている。

今後のあり方の方向性

答申において示された今後のあり方の方向性は、公民館に関する面にとどまらず、生涯学習のより一層の推進に向けた仕組みの構築等、幅広いビジョンを持ったものであった。そこで示された生涯学習のビジョンは次のとおりである。

次世代を担う若者から、知識・経験を継承する立場の高齢者まで、あらゆる年代の市民を、市の生涯学習推進に巻き込んでいく仕組みを構築する。そして、その中での活動が、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携することで、各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれるのではないかと。つまり、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していくことで、世代を超えた地域交流の促進や、市民によるまちの活性化につながるような生涯学習が推進できるものとなる。

この生涯学習のビジョンを公民館の今後のあり方の方向性として認識することが求められている。

必要な取組と視点（答申の主な内容）

学びの場に関する情報発信の拠点となることで、潜在的ニーズを学びとして具体化し、多くの市民が自身の生涯学習を実現していく。

- 地域にとって必要な情報を発信し、啓発し続ける。
- 公民館の役割を広く知ってもらう。
- 潜在的ニーズを持っている市民と、生涯学習施設が発信する情報との接点を増やす。

市民の学びたい・つながりたいという思いを形にできる仕組みをつくることで、より多くの市民にとっての生涯学習の機会や参画のきっかけとする。

- 市が人と人、人と活動、活動と活動の関係性をデザインし、市民活動が社会還元へと発展していく道しるべを示すなどのサポート役として各地域を支援する。
- 学びを求める市民一人ひとりが自身の生涯学習を自ら設計し実現できるよう支援する。
- 気軽に参加でき、誰もが使える施設となるような仕掛けを行う。

これまでの公民館の枠組みにとらわれず他の公共施設等と柔軟に連携することで、幅広い層の市民に対する生涯学習の場を提供するとともに、市民活動を活性化する。

- 生涯学習センターの人材育成等の仕組みや、各公民館で実績を挙げている取組を共有し、連携・強化を図る。
- 社会教育法に定める公民館の枠組みにとらわれず、生涯学習のより良い推進方法を検討する。
- 生涯学習のための場の数は減らさずに、他の施設との複合化や民間施設等の資源を有効活用すること等も検討する。

市民の生涯学習を市民と市の協働でつくる。

- 市民と市が目的と役割を認識して推進する。
- それぞれが生涯学習の裾野や機会を広げ、生涯学習活動の充実に寄与していく。
- 市民は自らの学びの充実だけを目的とせず、市とともに生涯学習推進の担い手となる。
- 資源・資産を活かすため、有料化も含めた適切な運営方法を検討する。

答申において、取組を進める上での必要な視点を、次のように示していただいた。

- 市内の資源を有効に活用し、また既存の公民館の枠組みにとらわれることなく、市政を推進するための適切な施設としていくことが重要である。
- 宇治公民館の閉館に伴い、活動場所や内容を変更して活動を継続している団体等もあることから、生涯学習を推進する上で、活動の場や地域性について十分に配慮する必要がある。
- このような視点のもと、現状の公民館における課題を解決するために、現状の運営方法や仕組み等を見直し、再構築する必要がある。

市教委としては答申を受け、そこに示された今後のあり方の方向性（生涯学習のビジョン）を本市の生涯学習のビジョンとして認識し、取組を進めていきたい。

4.

市教委が考える生涯学習のビジョンと公民館の今後のあり方

答申で示された生涯学習のビジョンをもとに、市教委が考える生涯学習のビジョンと公民館の今後のあり方を次のように示す。

市教委が考える生涯学習のビジョン

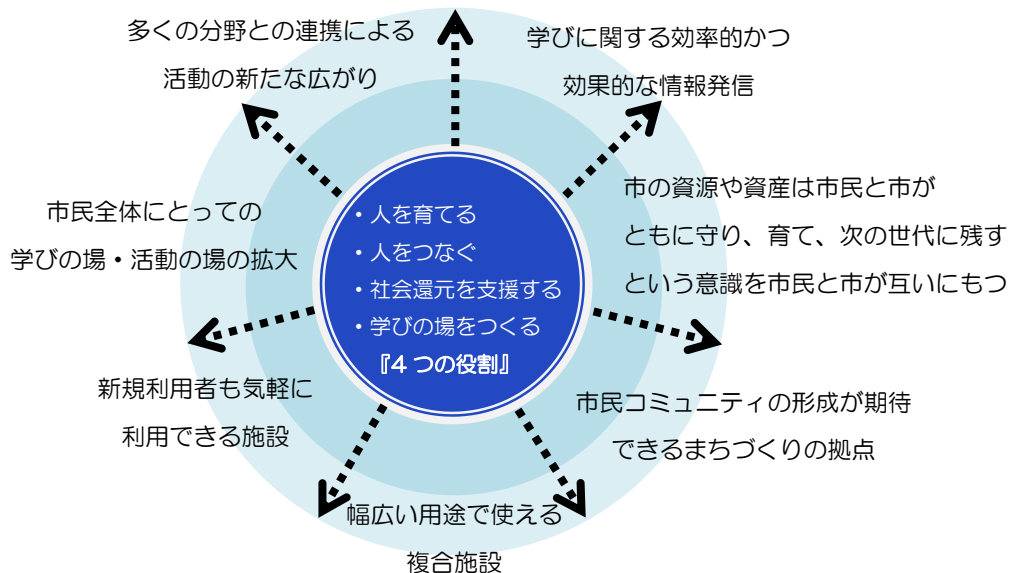
これまで本市の生涯学習推進の歴史において積み重ねてきた成果を活かすとともに、必要な生涯学習の場を確保しながら、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携する。そして、各々が専門性を活かしながら、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していく。また、市民がまちづくりについて考え自ら行動できるよう、多種多様な課題について学び解決できる力を支援するため、人材育成や社会還元の仕組みをより効果的に活用し、市民活動を活性化する。



このビジョンの達成に向けた公民館の今後のあり方を以下のように考える。

公民館の今後のあり方

答申で示された4つの役割の維持と充実を図り、既存の公民館の枠組みにとらわれることなく、幅広い視点で生涯学習の推進を促していく場となる。



生涯学習のビジョン達成に向けた公民館の今後のあり方を実現するための取組を、次章に示す。

5.

市教委の取組

前章に示した市教委が考える生涯学習のビジョンを目指して、公民館の今後のあり方を実現するためには、第2章で示した課題を解決し、答申で示された4つの役割の維持・充実に努めることが重要である。そこで、市教委がまず果たすべきことは、答申に示されている通り、総合化の視点を持って現状の運営方法や仕組み等を見直し、既存の公民館の枠組みにとらわれることなく、運営方法や仕組み等を再構築し、かつ生涯学習を推進するための場を維持することである。

そこで、市教委は次の取組を行う。

取組① 公民館を幅広い視点で生涯学習を推進する場に転換する

…市教委が考える課題①、課題②、課題③の解決策

取組② 市の資源・資産を引き継ぐために費用負担のあり方を検討する

…市教委が考える課題④の解決策

取組③ 中宇治地域に学びの場を確保する

…市教委が考える課題⑤の解決策

詳細は次ページへ

市教委は上記に挙げた3点の取組を、生涯学習のビジョンを達成するための第一歩として今後進めていく。

取組① 公民館を幅広い視点で生涯学習を推進する場に転換する

社会教育法に定める公民館の枠組みにとらわれない施設にすることで、幅広い層の市民に生涯学習の場を提供する。また、市民がまちづくりについて考え自ら行動できるよう、多種多様な課題について学び解決できる力を支援する場とするため、人材育成や社会還元の仕組みをより効果的に取り入れ、市民活動を活性化する。



【公民館から生涯学習を推進する新たな教育施設 「(仮称) 市民交流まなび館」へと生まれ変わります】

令和2年10月末を目途に公民館条例を廃止し、現在の公民館の施設を活用して社会教育を含む生涯学習を推進する新たな教育施設「(仮称) 市民交流まなび館」(以下「(仮称) まなび館」という。)を条例設置する。「(仮称) まなび館」では、現在の公民館の施設をより使いやすくするとともに、これまでの運営方法等を見直す。その見直しについては、生涯学習センターの仕組みの導入など、より効果的な仕組み作りについて検討を重ねながら、「(仮称) まなび館」として運用していく中で、これまで公民館で実施されてきた活動の継続や広がり、新たな展開も考慮しながら順次、進めていくこととする。

☑「(仮称) まなび館」にする目的

新たな生涯学習活動の実現や既存の社会教育活動の広がり等を目指し、公民館のこれまでの実績や効果的な仕組みを活かしながら、生涯学習センターの仕組みを取り入れた「(仮称) まなび館」にする。これにより、公民館でのこれまでの利用者の活動も継続しながら、より幅広い用途での利用が可能となり、これまでの活動の新しい展開や学びの社会還元を促す効果が期待される。

☑機能面について

- 今後～
- ・生涯学習センターが、幅広い年齢層に向けた(仮称)まなび館に関する情報の周知や各館の学びに関する情報の集約・発信を行う。
 - ・生涯学習センターと各館連携のもと、地域の人材育成や世代を超えた住民同士の交流、地域課題の発見・共有を目指した出前講座を実施する。

(仮称)まなび館
の運用状況に
応じて

- ・ 利用時間枠の見直しや休日の開館、空き部屋の有効活用（利用者同士の交流の場の提供等）を実施する。
- ・ 現在生涯学習センターで実施している市民活動サポート事業や、市民と（仮称）まなび館との共催事業等を実施する。
- ・ 生涯学習課が、各館の生涯学習に関する活動と福祉や防災等他の分野との連携を促すことで、新たな学びの機会の創出を支援する。
- ・ 地域の交流（地域住民の集いの場としてのイベント等）、技術や知識の伝達（ワークショップの開催や個人で開催する講演会等）、学びの成果物（ハンドメイド作品や地域で栽培した野菜等）の販売もできる講座やイベントの開催等、これまで実施できなかった生涯学習活動も実施可能な仕組みとする。

期待できる効果

① 学びの場・活動の場が増える

- ・ 施設の用途が広がることで、市民の新たな学びの場や、学びの成果を地域に還元する場が生まれる。
- ・ 限られた部屋数を、より多くの市民が利用できる仕組みにすることで、新規利用者の活動場所を作り出すことができ、自身の生涯学習を実現できる人が一人でも多く育つ環境が整備できる。
- ・ 生涯学習センターでは人材育成の講座を行い、そこで育まれた人材が社会還元の場として自ら講座等を行う仕組みを作っており、各館でもその仕組みを取り入れることが可能となる。

② 多分野との連携・世代を超えた交流が期待できる

- ・ 生涯学習に関する活動と多くの分野との連携を促すことで、活動の新たな広がりが期待できる。
- ・ 他の分野の情報も得ることができるようになるため、市民生活により身近な公共施設となり、地域住民の自治力育成・向上につながる。
- ・ 世代を超えた交流・利用が促進でき、市民コミュニティの形成へとつなげることができる。

③ 教育施設として効果的な事業展開につなげることができる

- ・ 生涯学習センターと各館が連携した、効率的かつ効果的な情報発信を充実させることで、施設の役割や情報を利用者に周知できる。
- ・ 生涯学習センターより出前講座を開催することで、広く学びの機会を提供し、生涯学習の推進につなげることができる。

取組② 市の資源・資産を次世代に引き継ぐために費用負担のあり方を検討する

広く生涯学習を推進するためには、これまでの利用者が今後も継続して活動できる拠点、そして次世代の市民が生涯学習を推進する拠点として公共施設を残していかなければならない。そのために、市民と市が共に生涯学習推進の担い手として市の資源・資産を活かす方法を検討し、市全体で公共施設を守っていくための仕組みづくりを行う。



【有料化を検討します】

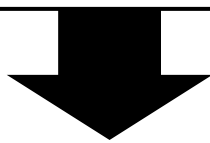
社会情勢や厳しい財政状況に合わせて、限られた資源・資産を有効活用することが市全体で求められており、財源の確保も必要となっている。公共施設や学びの機会を守り次世代に残すための仕組みの一つとして、有料化を検討する。

有料化の検討にあたっては、他の公共施設との整合を図るとともに利用者への影響も考慮する。

☑有料化の考え方

学びの場を守り次の世代に繋げ、より永く生涯学習の場として機能し続けるようにするため、他の公共施設との整合を図る中で、施設利用料の徴収と有料講座等の拡大を行う。

有料化にあたっては、利用の実態や活動実績、継続した学びの実現等を考慮し、「(仮称)まなび館」での状況も見ながら検討する。



期待できる効果

- ・市の資源や資産は、市民と市が共に守り、育て、次の世代に残すという意識を、互いに持つことができる。
- ・必要経費を利用者や受講者から徴収することで、財源の確保、公共施設の有効活用ができ、より永く学びと活動の場を維持し続けることや、公共を育む新しい価値意識を醸成することにつながる。

取組③ 中宇治地域に学びの場を確保する

変化する社会状況や幅広い世代の市民の学習意欲に応える新たな学びと活動の機会を展開する。

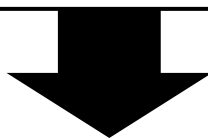


【中宇治地域に生涯学習の場を確保します】

市が宇治公民館跡地も含め中宇治地域に整備を検討する新たな公共施設に、教育の範疇にとどまらない多様な分野との連携など、幅広い視点で生涯学習を促す場となる新たな学びの場を確保するよう求める。

☑中宇治地域に生涯学習の場を確保する目的

- ・ 宇治公民館を利用していた人も含め、市民全体にとっての学びの場・活動の場とする。
- ・ 教育を主な目的としていない施設に学びの場を確保することで、様々な分野との連携を促し、そこを訪れる人たちが生涯学習に触れる機会を創出する。
- ・ 幅広い世代が利用しやすく、多くの人が多様な目的で訪れることができるような、時代に合わせた新しい発想を盛り込んだ生涯学習の場を創出する。



期待できる効果

- ・ 新たな生涯学習推進の拠点が增える。
- ・ 幅広い世代からの様々なニーズに応えることができる。
- ・ より多くの市民が自らの生涯学習を実現でき、なおかつ様々な分野との連携を促すことで新しい取組が生まれる総合化が図れる。

6.

おわりに

今回示した公民館の運営方法や仕組みの見直しと再構築は、本市における生涯学習のビジョンを実現するために必要な基礎を築くためのものである。各公民館における人材の有効活用や利用者が運営に協力する体制が作り上げられたことを始め、これまで積み重ねてきた成果を活かしながら、仕組みの見直しと再構築を行うことで、現状での公民館の課題を解決し変化する社会状況や幅広い生涯学習のニーズに応え、市全体の生涯学習の推進をより効率的・効果的に進めていく。基礎を築いた後は、答申でも示されていた、「世代を超えた地域交流の促進や、市民によるまちの活性化につながるような生涯学習の推進」を目指し、「生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等の総合化」に向けて更なる取組を検討・推進していく。

今後の本市における生涯学習の推進において、何より重要であるのが、市民と市の協働である。これまで、多くの市民が公民館や生涯学習センターで学び、サークル活動等で学びを深めてこられた。今まで培った知識や経験を社会に還元することは、市の生涯学習の推進に繋がり、ひいては、市民によるまちの活性化に繋がる。今後も引き続き、市と共に市民が生涯学習推進の担い手として、より一層生涯学習の充実に寄与できるよう、取組を進めていく。

